

第7章

比較 ● ● ● ● ● 流れの中の対称関係 ● ● ● ● ●

英文中に、語尾がerの単語やasなどがあつたら、

-er → than / as → as

というかわりて読んでいきます。この英文を比較構文と言います。
比較構文が出てきたら、まず次の3つの点に注意してください。

① asとas、erとthanとの距離に惑わされない

asがあればas、単語の語尾にerがあればthanが、それぞれの間がどんなに離れていても、必ず後に出てくると予想しながら英文の流れに乗って読んでいきます。

② 英文の流れの中で処理する

「流れの中で」とは、

I am taller than he.

をtallerのerに注目し、tallerが出てきた時点で、

「than以下と比べ、背が高い」

と読んでしまうということです。そうすることで、

There is nothing more ~ than ... ⇒ 「何もない、…より～なものは」
のような文も理解しやすくなるはずですよ。

③ 比較構文のもっている“対称性”を確認する

A $\left\{ \begin{array}{l} \text{than} \\ \text{as} \end{array} \right\}$ A' (AとA'が対称関係にある)

asやthanを中心に対称関係を作ります。AとA'が天びんに乗っている感じですから、それぞれが「何」であるかを確認します。

たとえば、「この町の気候はロンドンより穏やかだ」では、「この町の気候 (the climate of this town)」と比較しているのは「ロンドン」ではなく、「ロンドンの気候 (the climate of London)」というのが英語の考え方です。

the climateをthatに代えて、

The climate of this town is milder than **that** of London.

とします。

なお、thatの【基本意味】は「あれ」ではなく、「それ」であり、このケースも「ロンドンのそれ」と訳せば理解できます。

Notes thatという語は英文理解のポイントとなる語です。だからこそthatを「それ」とすることを出発点にすべきです。詳しいことは『英文法は活きている』の第6章(thatと比較)も参照してください。

§1 比較表現の意味と文構造

● **-er [more ~ / less ~] than** } + 「筆者と読者の了解事項」
● **as ~ as**

「筆者と読者の了解事項」 — 比較に関するポイントはこの点に尽きると言えます。

① 「あの人は私と同じ年です」 ⇒ He is of my age. (⇒ 第1章・㉑・㉓)

とするのは自然な考え方です。

これをas ~ as ...を用いて表現した

He is as old as I (am old).

は、筆者が読者を説得するために、2番目のasの後に、お互いにとってわかりやすいI (am old) を持ち出すことになります。あえて訳すと、

「私がどの程度oldかということは (あなたも知っているだろうが)、彼もそれと同じようにoldです」

ということです。

マザー・グースの『メリーさんの羊』の歌詞に、

♪ Mary had a little lamb. ~ Its fleece was as white as snow.